

ワールド・カフェ

～オープンに会話を行い、自由にネットワークを築く場とプロセス～

ワールド・カフェとは：

人々がカフェにある空間のようなオープンで創造性に富んだ会話ができる場とプロセスを用意することで、組織やコミュニティの文化や状況の共有や新しい知識の生成を行うファシリテーションプロセス。

【ワールド・カフェについて】

◇ワールド・カフェによるカフェ的会話の進め方

・カフェのプロセスでは、あたかも蝶が蜜を求めて花から花へと飛び移るように、人々がテーブルからテーブルへと移動して、多様な洞察を結びつけ、アイデアを他花受粉することにより、集散的な知恵を生み出すのである。

・進め方はとてもシンプルである。ただし実践してみると、その場作りやプロセスの1つひとつに主体性や創造性を生み出す哲学や思想が実にうまく込められている。実践にあたっては、それらを理解した上で進めたいものである。

1. 場作り

▼テーブルのセッティング

- ・まず場のセッティングとして、4～5人くらいが座れるカフェスタイルのテーブルを必要数用意する。
- ・経験的にも1テーブル4名くらいにすると最も相互作用が高まるようである(8～10名では相手との距離が遠すぎる印象があった)。
- ・テーブルは、丸型が理想的だが、なければ普通の会議室の机でも代用は可能。日常とは違ったカフェ的な雰囲気をつくるためにテーブルクロスを敷いたり、花瓶を置いたりするのもよい。

▼落書きの仕掛け

- ・テーブルの上にはフリップチャートか模造紙を1～2枚敷き、カラーマーカーを置いておくことで、話し合いの最中に参加者が落書きできるようにする。
- ・とてもシンプルな仕掛けだが、話し合いが進むうちに、この落書きを通して、アイデアとアイデアが結びつき、新たな洞察が生まれていくことはカフェの醍醐味ともいえる。
- ・また、模造紙が下に敷いてあると、普段あまり話さない人も、アイデアを書き込むことによって貢献することができる。

▼その他「おもてなし」の仕掛け

- ・その他にも、人々の創造性や開放性が最大限に高まるような工夫を色々と考えてみてほしい。誰もが自宅でパーティを主催するときは、「友人たちに喜んでもらえるにはどうしたらよいただろうか？」と頭をひねって考えることだろう。日常の仕事や話し合いの場の中にもそうしたホスピタリティの考えを取り組むことが、人々の中にある「会議＝つまらなくて無駄なもの」というマインドセットを取り除き、生き活きとした話し合いを生み出すのかもしれない。

2. プロセス

▼質問の考案

- ・ワールド・カフェは、「質問」をもとに会話が進められる。
- ・ワールド・カフェの原理の1つに「大切な質問を探究する」とあるように、そこに集まった人たちの生活や仕事、組織やコミュニティにとって真に大切な質問を投げかけることができれば、自然と関心が高まり、探究が進んでいく。どんな質問を投げかけるかを真剣に考えたいものである(質問を集まった参加者が考える場合もある)。

▼ラウンド

- ・カフェでは、質問をもとに通常20～30分の会話が3ラウンド行われる。
- ・会話の中で出たアイデアやクエスチョンなどは、テーブルに敷かれた模造紙に書き込まれていく。
- ・最初のラウンドが終わったら、1人が「ホスト」としてテーブルに残り、ホスト以外の方は、他のテーブルに移動する。ホストは、新しい人を歓迎し、そこでどんなダイアログが行われていたかを新しい人たちとシェアし、新しく入ってきた人たちのアイデアや質問、テーマとコネクトする。
- ・3ラウンド目は、もとのテーブルに戻って、他のテーブルで得られた自分たちの発見を統合し、探求を深める。
- ・最後に、全体で発見や洞察を共有して終了する。

3. 実践の心構え

- ・どんなに物理的に素敵な空間をつくっても、例えば主催する人の発言が指示命令的であったり、「〇〇はやってはいけません」と禁止用語を連発してしまったりすると、場がコントロールされてしまい、エネルギーが失われてしまう。それでは、本末転倒である。「模造紙にぜひ書き込みをしてください!」とやや強調して投げかけても、それは返って逆効果である。

- ・必要な場とプロセスがデザインされれば、主催者側が何もしなくても、参加者の主体性や創造性は自然と高まるものである。人々の可能性を信じて、余計な邪魔をせず、一参加者として、自分自身もカフェの会話を楽しむことがカフェ的会話を成功させる秘訣といえるだろう。

【カフェの会話を生み出す7つの原理】

ワールド・カフェでは以下の7つの原理に基づいて、話し合いの場をデザインすることで、**生成的なダイアログを生み出します**

▼コンテキストを設定する

- ・ダイアログを可能にするための目的と広範な要件を明確にする

▼もてなしの空間を創造する

- ・個人的な快適さとお互いを尊重する気持ちを育むことができるもてなしの環境と心理的な安心感を確保する

▼大切な質問を探究する

- ・協働を引き出すような強い力を持つ質問に対して、集合的に関心を高める

▼全員の貢献を促す

- ・参画と相互支援を促すことによって、「個」と「全体」の関係を活性化する

▼多様な視点を他花受粉させて、繋げる

- ・中核的な質問に対して共通の関心を高め、異なる視点のつながりをもつ多様性と密度を意図的に強めることにより、創発が現れる生体システムのダイナミズムを活用する

▼パターンと、洞察、より深い質問に共に耳を傾ける

- ・個々人の貢献を損なわずに思考の結束を育むことができるように、共通の関心事に焦点を当てる

▼集合的発見を収穫し共有する

- ・集合的知識と洞察を可視化することによって行動に移せるようにする